

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)											
ET45G009		幼児心理学特論(Special Seminar of Child Development Psychology)					教育心理学											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 田 中 洋 E-mail htanaka@oita-u.ac.jp 内線 7557												
授業の概要	認知や情動、自己意識などの諸領域の発達に関する様々な理論を学ぶとともに、高度な実践等の分析を通じて、乳幼児を取り巻く現代的な問題について討論することを通じて、彼らの発達に関するより高度な理解的視点を養成することを目的とする。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 認知や情動、自己意識などの諸領域の発達に関する理論を学ぶ。																		
目標2 高度な実践等に触れ、その分析を通じて現代的な子どもの発達に関する理論的観点を身につける。																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 オリエンテーション																		
2 乳幼児心理学研究の動向																		
3 乳幼児期における思考の特徴																		
4 理性的思考と運動的知能の関係																		
5 外的なものとの内的なものの関係をめぐる問題																		
6 精神発達の規定因																		
7 運動水準と心的水準の関係																		
8 乳幼児期の発達におけるモジュール性について																		
9 領域固有な過程としての言語獲得																		
10 物理的世界の理解																		
11 乳幼児における「心の理論」																		
12 領域固有性とピアジェ理論																		
13 表象書き換え(RR)モデルについて																		
14 RRモデルとコネクショニズム																		
15 今後の乳幼児心理学研究の展望																		
ラック ニテン イグ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の個人発表と質疑応答に加え、子どもに関わる様々な現代的課題について質問し、それに対するやりとりを通じて、より高度な理論的観点を養成する。										工夫 その 他の	個人発表に関連した文献の検索および行動を通じて、授業内容の理解を深める。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	新聞や雑誌等を通じて、幼児の発達に関する事象にできるだけ触れ、その背景にある問題について自分なりに考えを構築する。 授業で用いられた文献以外の資料を検索し、取りあげられた問題について理解を深める。																
教科書	A・カミロフスミス著『人間発達の認知科学』ミネルヴァ書房、他。																	
参考書	心理科学研究会 編『児童心理学試論(改訂新版)』三和書房 心理科学研究会 編『育ち合う乳幼児心理学』有斐閣コンパクト 秦野悦子・山崎晃 編『保育の中での臨床発達支援』ミネルヴァ書房																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	個人発表	60%																
	レポート	40%																
授業における質疑応答も個人発表の評価に含まれるものとする。																		
注意事項	特になし。																	
備考	特になし。																	
リンク	URL																	